

# Flash を用いた教師向け WebCT 操作マニュアル

國田 祥子<sup>†</sup> 隅谷孝洋<sup>‡</sup> 稲垣知宏<sup>‡</sup> 長登 康<sup>‡</sup> 中村 純<sup>‡</sup>

<sup>†</sup> 広島大学教育室

<sup>‡</sup> 広島大学情報メディア研究センター

shoko@hiroshima-u.ac.jp

概要 : WebCT を用いて初めて授業を行う教師を対象にした冊子版の WebCT 操作マニュアルを元に, Flash を用いた WebCT 操作マニュアルを作成し, インターネット上で公開した. 操作の動きを動画で視覚的に確認出来るため, 冊子版よりも操作方法をより把握しやすくなると考えられる. 公開後, WebCT を用いて授業を行っている広島大学の教師を対象に, Web 上で評価アンケートを実施した. その結果を報告する.

## 1. Flash 版 WebCT 操作マニュアルの作成

### 1.1. WebCT 操作マニュアル

広島大学では, 初めて WebCT を用いて授業を行う教師を対象にした「はじめての WebCT」という冊子版の操作マニュアルを用意している. このマニュアルは, 教師が WebCT を用いて授業を行う上で最初に必要となるであろう基本的な機能の操作方法を, 文章と操作画面の画像を用いて説明した小冊子であり, 実際に使用している教師からの評価も非常に高いものである.

だがその一方で, WebCT の操作には独特な側面もあり, 多少 PC の操作に慣れている教師にとっても, 実際に操作する場面で戸惑う面も少なくない. 冊子版で丁寧に解説してある部分においても, 文章と画像を用いた説明では直感的に把握しづらく, 理解に労力を必要とする場面も多い.

そこで今回, 操作の困難さによる教師の WebCT への忌避感情を緩和し, より多くの教師, および授業において WebCT の利用が容易になるよう, 実際の操作場面を視覚的に提示する Flash 版 WebCT 操作マニュアルを作成した. このマニ

ュアルは冊子版「はじめての WebCT」(広島大学情報メディア教育研究センター, 2005) を元に, Flash 版「はじめての WebCT」として作成し, インターネット上で公開した.

(URL:<http://www.riise.hiroshima-u.ac.jp/service/webct/sbs/>)

Flash の作成には Adobe 社の Macromedia Captivate を用い, 実際の WebCT 操作画面をキャプチャし, 加工を施して Flash を作成する手法を用いた.

### 1.2. 冊子版との比較

図 1 は冊子版「はじめての WebCT」内の 1 部分, 図 2 は同じ項目における Flash 版「はじめての WebCT」の 1 場面を示している. 基本的に, マニュアルの内容は冊子版と Flash 版で同一となっ

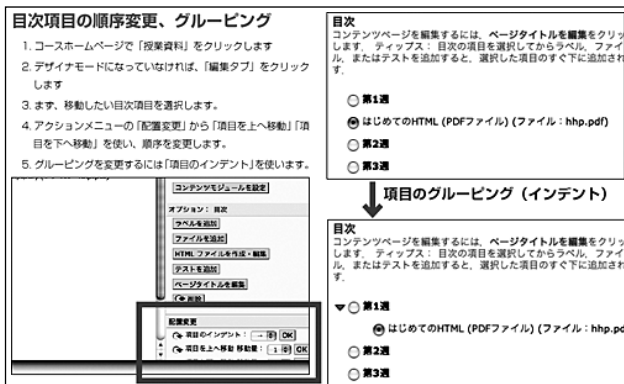


図 1. 冊子版「はじめての WebCT」から



図 2. Flash 版「はじめての WebCT」から

ている。冊子版では操作説明が文章でなされているが、Flash 版ではマウスの動きやそれに伴うキャプションによって操作を説明している。また、操作説明以外の説明部分は、Flash 版でも冊子版と同様に文章で表示した。

## 2 Flash 版「はじめての WebCT」評価アンケート

### 2.1 質問項目

質問項目は、以下の 10 項目を用意した。質問 1～質問 6 は「とてもそう思う」～「どちらでもない」～「まったくそう思わない」の 5 段階尺度の評定項目とし、項目 7～項目 10 は自由回答項目とした。

質問 1：役に立つと思いますか

質問 2：わかりやすいですか

質問 3：解説されている項目は適切ですか

質問 4：画質は十分ですか

質問 5：Flash のファイルサイズは適切ですか

質問 6：今後も参考にしたいと思いませんか

質問 7：冊子版と比較して良かった点、悪かった点などをお書きください。

質問 8：現在公開されている以外で、ここも解説して欲しいという点がありましたら教えて下さい。

質問 9：改善点の提案がありましたらお願いします。

質問 10：その他、ご意見・ご感想などあれば自由をお願いします。

### 2.2 実施方法

**対象者** 広島大学内の WebCT を用いて授業を行う教師とそのサポートスタッフが参加しているメーリングリスト[wbt-ml]に参加している教師。実施期間内に回答のあった 11 名の内、全ての項目で

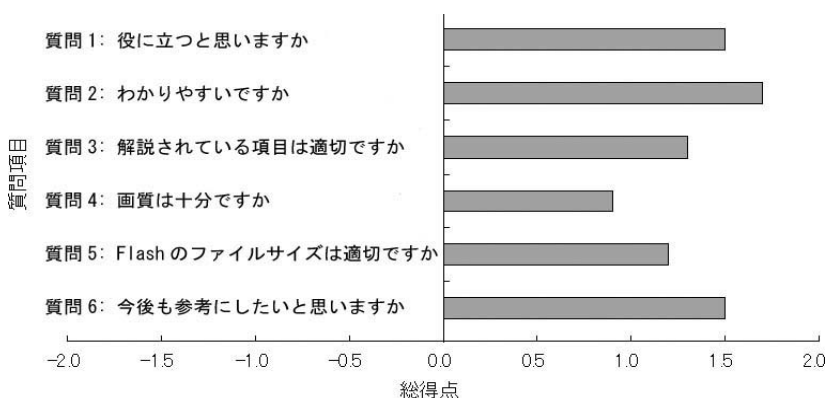


図 3. 評価アンケート（質問 1～質問 6）の平均得点

無回答であった 1 名を除く 10 名を有効回答者とした。

**手続き** Web 上にアンケートフォームを用意し、[wbt-ml]にアンケート回答を依頼するメールを投稿した。

**実施期間** 2006 年 6 月 14 日～2006 年 8 月 3 日とした。

### 2.3 結果

質問 1～質問 6 の結果について、「とてもそう思う」を+2、「まあそう思う」を+1、「どちらでもない」を 0、「あまりそう思わない」を-1、「まったくそう思わない」を-2 として得点化し、平均得点を算出した。その結果を示したものが図 3 である。

ほとんどの項目において 1 点を超えており、概ね評価が高かったことが示された。唯一平均得点が 1 点に満たなかった質問 4 について、その評定の割合を示した(図 4)。

過半数が肯定的な評価をしている一方で、5 分の 1 が Flash 版「はじめての WebCT」の画質に否定的な評価を行っていた。他の質問には否定的な評価が全く行われていなかったことを考えると、この否定意見は重要である。Web にのせることを考慮して、ファイルサイズを小さくするために画像を 800px×600px 以下の大きさに圧縮したが、この結果に大きく影響していると思われる。実際には学内のブロードバンドで閲覧している人が多いと考えられる事から、画像のサイズをもう少し大きくしても良かったかも知れない。

冊子版と比較して良かった点、悪かった点を自由回答で尋ねた質問 7 では、良かった点としては共通して「操作が分かりやすい」という意見が得られた。その一方で、悪かった点としては「見るのに時間がかかる」「動きが早すぎる」との意見が得られた。実際には、Flash を一時停止したり巻

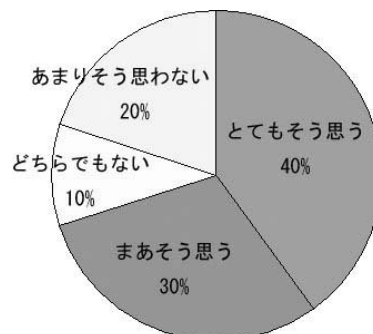


図 4. 質問 4 に対する評定の割合

き戻したりするなどの操作も可能であるが、操作パネルが小さいため、その事に気付かなかった閲覧者もいた可能性がある。この点については、分かりやすい場所にその旨をアナウンスする等することで解決できるだろう。

また、新たに解説して欲しい項目を尋ねた質問 8 では、「テスト結果の見方」「レポート提出条件の設定」といった、比較的複雑な操作を必要とする項目が並んだ他、「クイックスタート」を用意して欲しいとの意見も見られた。改善点の提案を尋ねた質問 9 では、既出の画質の問題と Flash 操作の問題の他に、「音声を入れて欲しい」「Flash の表示時間を示して欲しい」「検索や索引を用意して欲しい」「仮想授業を用意し、その設定場面を見せて欲しい」といった要望が寄せられた。

複雑な操作についての解説を増やして欲しいというのは当然の意見であり、用意する必要があるだろう。また、クイックスタートを用意して欲しいという意見は仮想授業を用意して欲しいという意見とほぼ同じと考えられる。慣れないシステムを初めて使う際には、全てを 1 から作成するのは容易ではないため、この意見は妥当なものであると考えられる。モデルケースとなるようなコースを用意し、同時にその解説を行うことで WebCT の敷居を低くする事が出来るだろう。音声によるナレーションもまた、非常に有効だと考えられる。冊子版で画像と文章を用いて解説していたのと同様に、Flash 版でも動画と音声を用いて解説する事で、より理解を促進することが出来るだろう。表示時間の呈示については、見るのに時間がかかるというデメリットを解消する上で役に立つと思われる。検索等を用意することも、このマニュアルをより使いやすいものとしていく上で有効な改善方法と思われることから、実現出来るように努力したい。

### 3 まとめ

アンケートの結果から、概ね評価が高かったと考えられる Flash 版「はじめての WebCT」であるが、その一方で多くの改善点も見出された。寄せられた意見は全て非常にもっともだと思われる点ばかりであり、参考にして改善を目指したいと考えている。

自由な意見を募った質問 10 に寄せられた意見の中に「まったくの初心者には冊子版の方が向いているのでは」との意見が見られた。確かに、

WebCT を一度も触った事の無い人は、いきなり操作画面を見せられても付いていく事が出来ず、逆に受け身になってしまい理解が阻害される可能性も考えられる。このことから、Flash 版だけでなく冊子版と併せて利用される事を考え、冊子版もまた Flash 版と同様により分かりやすく改善する必要があるだろう。

今回はアンケートの実施時期が前期末と重なり、更には利用者のほとんどが WebCT の操作方法を概ね理解している中でのアンケートであったためか、WebCT の利用者数に対するアンケート回答率が非常に低かった。このことが、アンケート結果にバイアスをかけることとなった可能性が考えられる。すなわち、そうした中でアンケートに回答する人は、全体的に好意的な意見を持っている可能性があり、そのためアンケートの結果が非常に評価の高いものとなった可能性もある。この点についても、考慮しておかなくてはならないだろう。

### 4 参考文献

広島大学情報メディア教育研究センター はじめての WebCT(冊子版) 2005